

リ
オ
ン
の
風第104期
事業報告書

2024.4.1-2025.3.31

CONTENTS

一目でわかる決算情報	1
トップインタビュー	3
特集1 知っているようで知らない “振動計”の世界	7
特集2 知れば深まる。人と地域に寄り添う 当社の社会貢献活動をご紹介します	9
トピックス	11
業績の推移	12
会社案内	13
株主メモ	14
残したい“日本の音風景100選”	裏表紙

残したい“日本の音風景100選”

◀ 音の情景は裏表紙をご覧ください。

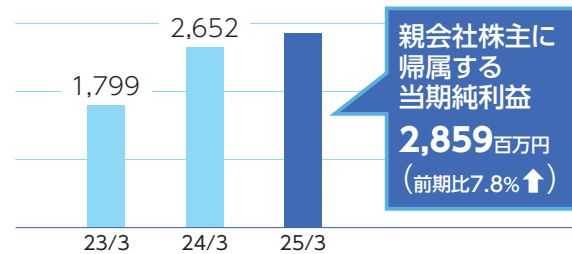
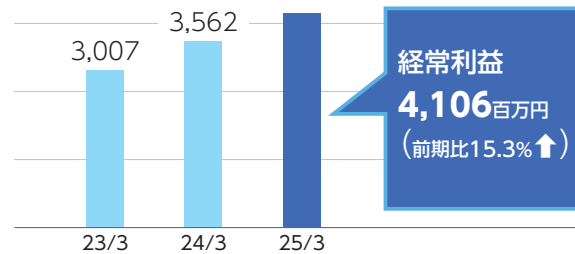
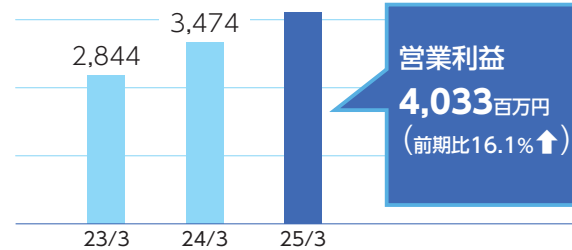
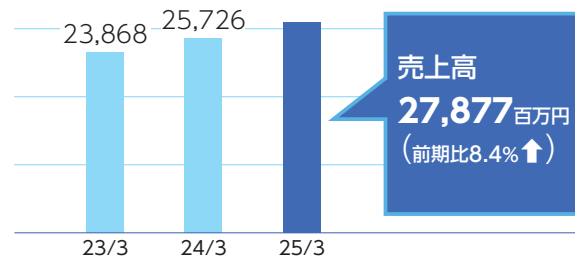
決算の
ポイント

- 売上高・営業利益・経常利益・当期純利益ともに過去最高を更新
- 微粒子計測器事業の大幅な伸長が全体の業績を牽引

2025年度
の見通し

- 新たな製品開発や各市場でのニーズの高まりを捕捉することで、全事業セグメントにおいて売上高・利益ともに継続的な伸長を見込む

決算ハイライト



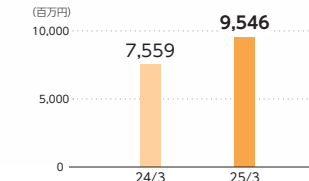
事業別ハイライト

微粒子計測器事業



売上高 **9,546**百万円 (前期比26.3%↑) 営業利益 **2,779**百万円 (前期比34.7%↑)

微粒子計測器



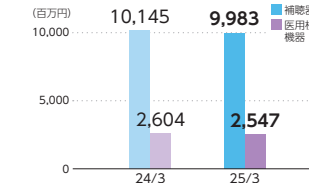
液体や気体の中に浮遊する微粒子を測定する微粒子計測器を提供し、高い清浄度管理が求められる半導体などの精密機械や医薬品の製造現場では、ユーザーからの高い信頼を得ています。当期は半導体関連市場において、世界各地での半導体製造設備の新設や増強を受け、半導体製造工場で使用される液中微粒子計測器の販売が好調に推移した結果、昨年に続き過去最高の売上高・営業利益となりました。

医療機器事業



売上高 **12,530**百万円 (前期比1.7%↓) 営業利益 **1,090**百万円 (前期比16.6%↓)

補聴器／医用検査機器



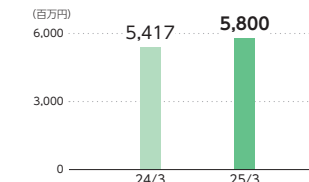
難聴の発見から解決まで一気通貫の価値を提供し、一人ひとりの聞こえに寄り添い続けています。当期は、補聴器の新製品を中心に拡販に努めましたが、物価高騰の影響による個人消費の落ち込みにより、減収となりました。また、医用検査機器では、大学・総合病院などにおいてオーディオメータなどの販売が引き続き好調に推移しているものの、設備投資が活発だった前期の売上高に及ばず、減収減益となりました。

環境機器事業



売上高 **5,800**百万円 (前期比7.1%↑) 営業利益 **163**百万円 (前期比57.1%↑)

音響・振動計測器



騒音計、振動計、地震計など、環境行政や産業の多彩なニーズにきめ細かく応える製品を提供し、国内外の環境・産業計測市場を支えています。当期は国内市場において騒音計及び振動計の新製品の発売による機器更新需要が継続していることから販売が好調に推移しました。利益面は、新製品の開発費用等が増加した一方で、売上高の伸長に加え、業務効率の改善を推し進めたことで、増収増益となりました。



2025年4月1日に 加藤公規が社長に就任しました。 株主の皆さまに新社長の声 をお届けいたします。

代表取締役社長 **加藤 公規**

プロフィール

- 1997年4月 当社入社
- 2015年4月 当社事業支援本部企画・経理部長
- 2018年4月 当社執行役員事業支援本部副本部長 兼 同本部海外戦略部長
- 2019年4月 当社執行役員経営企画本部長 兼 同本部海外推進部長
- 2019年6月 当社取締役経営企画本部長 兼 同本部海外推進部長
- 2021年4月 当社取締役経営企画本部長
- 2022年4月 当社常務取締役経営企画本部長
- 2025年4月 当社代表取締役社長
現在に至る

Q これまでにどのような仕事に携わってき
ましたか、また抱負をお聞かせください。

私は1997年4月に入社してから、主に経理
や経営企画、海外戦略といった経営や事業をサ
ポートする部門で仕事をしてきました。当時新た
に始まった連結決算制度や四半期決算制度への
対応やさまざまな会計制度に適応させた社内シ
ステムの整備などを行ったことで、財務の視点
から会社全体を俯瞰する基礎を磨くことができた

と思います。なかでも、グループ経営の仕組み
づくりに携わった際には、統一感を欠いていた
各社の戦略や社内規定を整理し、グループ全体
としての方向性を定めるとともに、ガバナンス体
制の構築にも取り組みました。その際に一番心
掛けたことは、グループの結束を高めるために、
企業間のコミュニケーションの場を多く持つこと
でした。お互いの理解を深めることで事業を強
く推進させる力が生まれることを実感しました。
また、国内外のM&Aの実務にも携わり、企業
の実態を数字で精査しつつ、企業風土が異なる
なかで双方の認識をすり合わせ、協力しあう文
化を醸成することに力を注ぎました。

このたびの社長就任にあたっては、80年以
上続いてきた会社の精神を大切にしながらも、
100年企業、そしてその先の未来に向けて、
しっかりとした土台を築くことが私の役割だと考

えています。そのために、何をすべきかを明確
にし、時代の変化に柔軟に対応できる体制を整
えることで、企業の価値をさらに高めていきたく
いと思います。

Q 通期の業績と2025年度の見通しについ
て、お聞かせください。

2024年度の業績は、微粒子計測器事業の販
売が好調に推移したことにより、2年連続で売上
高・利益ともに過去最高を更新しました。

微粒子計測器事業と深い関わりのある半導体
関連市場では、世界各地において生成AIやデー
タセンターなどの幅広い分野で半導体が求めら
れ、量産に向けた新たな設備投資が継続的に行
われています。当社の液中微粒子計は、半導体
の製造工程で使用される薬液の清浄度を管理す
るために使用されています。微粒子計測器事業

企業理念

リオンはすべての行動を通して人へ社会へ世界へ貢献する

この企業理念は、次に掲げる意義を表わす。

- 1 "社会に対し"悪しきことをしない"ことではなく"良きことをなし貢献する"
- 2 "社会貢献こそが究極の目的であり、収益の確保と投資はそのための手段にほかならない"
- 3 "従業員が志と使命感を抱き、誇りを持って、業務を通じて社会に貢献する"
- 4 "社会貢献の志と力量のある人材を育成し、輩出し続ける"

経営理念

- 1 クオリティーオブライフ(生活の質の向上)
当社は、当社製品をご愛顧頂くお客様の"生活の質の向上"を目指して、従業員が一丸となって誠心誠意努力する
- 2 バリアフリー(障壁のない社会)
当社は、当社製品をご愛顧頂くお客様が"障壁"を感じることなく市民社会で活躍できる製品・サービスを提供する
- 3 エコ・マネジメント(環境管理)
当社は、企業の社会的責任の一環として、全事業分野において環境負荷の低減を意識した活動を実践する

が急成長している背景の一つに、ここ数年の旺盛な需要に対して人員や生産設備を増強し、納期の正常化が進んだことが挙げられます。今後も、半導体需要の高まりに伴い、多少の変動はあるものの、当社製品への高い需要はしばらく続くものと見込んでいます。

次に当社の中核をなす医療機器事業において、補聴器の販売は物価高騰による個人消費の落ち込みなどによって伸び悩みました。一方で、近年では難聴と認知症の関連性が注目されるようになり、補聴器の重要性が広く認識されつつあります。耳鼻咽喉科との連携をより強化して、聞こえにお困りの方に当社製品を広く周知するとともに、新製品を投入することで売上高の拡大を図ってまいります。

主な事業について大まかに説明しましたが、引き続き順調に推移することで2025年度も増収増益を見込んでおります。

Q 過去最高の業績を更新し続けるなかで、どのようなことが強みだとお考えでしょうか。

単体で約500名、グループ全体で1,000名超の規模でありながら、コンパクトな組織運営が強みであると感じています。当社には3つの事業が

ありますが、大きな括りで見ますと、音と振動の技術を基礎に物事を測ることを中心に事業を拡大してきました。そのため、時には事業部の壁を越えて連携することが可能です。そのことを如実に実感したのは、微粒子計測器事業の旺盛な需要への対応です。ここ数年で供給不足を解消できたのは、人員や設備の増強に加え、難局を乗り越える体制を築ける組織力があったからです。ただ、事業を前に進めるには、やはり人の力が重要であり、人と人との連携によって、成長の速度が変わってきます。一体感を高める取り組みの一つとして、当社では約10年前から、全社員が参加する入社式を実施し、新入社員を温かく迎え入れています。このような形式は、当社くらいの規模では珍しく、特徴的な取り組みといえるで



未来を担う仲間とともに、さらなる成長を目指して

しょう。グループの強みを盤石にするためにも、お互いの理解を深めるためのイベントや取り組みを広げていきたいと考えています。

Q 今後、成長が期待される分野についてお聞かせください。

まず、補聴器の分野では、国内における補聴器装用率が欧州をはじめとした諸外国と比較するとかなり低い状況です。難聴が進行すると、社会的なつながりや生活の質に影響を及ぼす可能性があります。これに対し、近頃では認知症と難聴との関係性が強く注目され、医学会や行政においても難聴に関する対応策が活発に議論されています。今後も関係機関と連携して補聴

器の装用率向上に取り組み、潜在需要を掘り起こす施策を進めてまいります。

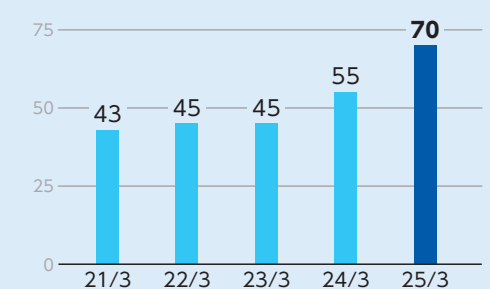
次に、音響・振動計測器の分野では、お客様のニーズを取り込む余地がまだまだあると考えています。当社が扱う計測器は、公的機関でも使用されるほど信頼性と品質の両面で高い評価を得ています。この強みを活かしてお客様の課題を解決するために、現場の声を丁寧に聞き取り、デジタル技術を活用してニーズを可視化・分析し、より精度の高い提案につなげていきます。

これからも事業活動を通じて、より一層社会に貢献するとともに、当社グループの持続的な成長と企業価値の向上に努めてまいります。

株主還元に関する基本方針

当社は、株主様に対する利益還元を経営の重要政策のひとつと認識しており、継続的な配当の維持と業績に応じた配当水準の向上に努めるべく、累進配当の実施を基本方針としております。内部留保金の使途につきましては、企業価値の増大を図ることを目的として、中長期的な事業拡大のため、研究開発・製造設備等に戦略的に投資し、長期的な競争力の強化を目指してまいります。なお、剰余金の配当は、中間と期末の年2回実施しております。

1株当たり年間配当金の推移 (単位:円)



知っているようで知らない

振動計の世界

私たちの身の回りは、目に見えない「振動」であふれています。そんな振動を“見える化”するのが「振動計」です。この特集では、当社の振動計の歩みや進化についてご紹介します。

社会環境の変化に対応し、公害用振動計を開発

高度成長期を迎えた1960年代は、自動車の普及などに伴い、人々の生活が豊かになる一方で、日本各地において公害問題が深刻になっていきました。騒音に加えて、都市部の住民を悩ませたのが振動でした。鍛造工場、プレス工場といった工場からの振動に加え、交通量の増加に伴う道路交通からの振動も社会問題化する中で、現場で使いやすく正確に測定できる振動計が求められるようになりました。当時、騒音計を開発していた当社は、「音は振動によって発生する」という原理から、騒音計と振動計が密接な関係にあることに着目し、社会のニーズに応えるべく、公害用振動レベル計（振動計）を開発しました。



振動公害調査のために開発されたVM-12(1967年)

ユニークなシステム開発(1969年)

騒音と振動の測定に強みを持っていた当社は一度に両方を測ることのできる「騒音・振動測定車」を開発。現場で騒音と振動の測定、分析、記録ができる画期的な移動型測定システムでした。



振動計の仕組みと用途

振動計は、センサー部で物体の振動を検出し、振動の大きさや速さなどを数値として表示します。振動計には、人の感覚に合わせて振動の強さを評価できる「振動レベル計」や、振動の周波数を解析して異常や故障の原因を特定する「振動分析計」などがあります。これらは、産業用機械の保守管理や点検、自動車の乗り心地改善などを目的に使用され、様々な分野で活躍しています。



振動分析計でモーターの状態を確認する様子

テクノロジーの発展とともに進化する振動計

テクノロジーの発展に伴い、センサー部の精度向上や通信機器との接続強化など、機能面が大きく向上しました。さらに、液晶画面の視認性や持ち運びやすさの改良により、現場での使い勝手も高まっています。従来の測定・分析に加え、現在では他機器との連携を通じて、より高度な価値を提供する存在へと進化を遂げています。



ハンディタイプの振動分析計 [VA-14]

通信機器との接続を強化した振動レベル計 [VM-57]

終わりに

環境問題への対応から始まった振動計は、今ではモノづくりの現場や設備の保全など幅広い分野で活躍しています。今後も振動の測定・解析を通じて、快適で安心な暮らしと持続可能な産業・社会の実現に貢献してまいります。



振動計を
マンガで紹介



知れば深まる。人と地域に寄り添う

当社の社会貢献活動をご紹介します

リオンをもっと身近に。

第7回株主様向け会社見学会を実施

2月25日(火)、株主の皆さまに当社事業へのご理解を一層深めていただくために、個人株主様を対象に国分寺本社で会社見学会を開催しました。多くの株主様にご応募いただき、改めて心より感謝申し上げます。

当日は、昨年3月に竣工したリオンプラザにて会社紹介が行われた後に、3グループに分かれて、普段なかなか立ち入ることのできない社内施設や当社設立の母体である小林理学研究所の音響博物館などを見学いただきました。その後に行われた役員との質疑応答では、事業環境や製品に関する多くのご質問をいただき、当社への高い関心と期待を感じる場となりました。また、会場の後方に設けた各事業部による製品展示では、実際に当社製品に触れていただくことで、より身近に感じていただく機会となりました。今後も様々なイベントを通じて株主様との積極的な対話を図ってまいります。



全身で感じる静寂。
無響室の不思議な世界へ



音響技術の歩みを伝える
貴重な展示を見学



営業担当が製品の特長を
詳しくご紹介



当社への理解と
期待が深まる質疑応答

ご参加いただいた
方の感想

見学会の内容に
とても満足。
あっという間に
時間が過ぎました。

補聴器以外
の事業分野、
特に微粒子計測器分野
に将来性を感じました。

累進配当を導入
していることを
もっと広報してもよい
のではと思いました。

市内の小学3年生、累計1,000人超が参加!

小学校の会社見学会を実施

2024年10月1日~11月26日の期間で、国分寺市内の小学校10校の小学3年生を対象に会社見学会を実施しました。当社は30年以上前から地域貢献活動の一環として見学会に取り組んでおり、毎年1,000名近くの子供たちが訪れています。近年はコロナの影響により、見学会が中止されたり、リモート形式の工場見学が行われたりしましたが、今回の開催では久しぶりに製造現場や無響室などの実地見学が可能となりました。

子供たちや引率の先生方には、ポケット型補聴器の聞こえや、無響室内外で感じる音の違いを体感することで、当社の製品や事業について理解を深めていただきました。音の不思議に驚く声とともに多くの質問が寄せられ、楽しみながら学んでいる様子がうかがえました。

中には、この見学会をきっかけに当社に関心を持ち、実際に入社した方もいます。現在は社員として活躍しており、当時の見学で感じた印象やエピソードを今でも嬉しそうに語ってくれます。

引き続き、地域の皆さまとの関わりを大切にしながら活動を行ってまいります。



大阪・関西万博における

「未利用間伐材を活用したベンチ」の会場設置プロジェクトに協力



※Co-Design Challengeとは
大阪・関西万博を契機に、様々な「これからの日本の暮らし(まち)」を改めて考え、多彩なプレイヤーとの共創により新たなモノを万博で実現するプロジェクトです。

4月13日(日)から開催中の大阪・関西万博における「Co-Design Challenge[※]」プログラムの一環として実施された、「未利用間伐材を活用したベンチ」の会場設置プロジェクトに協力いたしました。通常は廃棄されることが多い間伐材ですが、このプロジェクトではそれを有効活用し、ベンチを作成しました。万博会場内にこのベンチを設置することで、環境資源の有効活用や持続可能な社会の実現に寄与するとともに、来場者の快適な空間づくりに貢献いたします。

トピックス

Topics

1 TOPICS

通信の多重化によりネットワーク機能を強化した強震計測装置「SM-31」を発売

当社は、情報伝達手段の多重化に対応した強震計測装置「SM-31」を4月3日(木)に発売しました。本製品は、2つの感震器が接続可能な地震計として、ダムの地震観測や工場防災に最適であるとともに、ネットワークを通じて設定変更やファームウェアのバージョンアップを遠隔で操作できるため、現場作業の負担を軽減します。

強震計測装置は、地震動の加速度を高精度に記録し、地震の揺れの強さや特性を詳細に把握するために不可欠な装置です。当社は、公共の大型施設(ダムや防潮水門などの河川構造物)や交通インフラ、電力関連施設など、数多くの重要な構造物に設置しており、過去の地震発生時において、その機能性と安定性の高さを発揮してきました。



強震計測装置「SM-31」(右)とデジタル出力感震器「PV-24」(左)

地震計に関する情報は
こちらをご参照ください。

→ https://svmeas.rion.co.jp/lp/rion_seismometer_site.html



2 TOPICS

第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025の協賛契約を締結

2024年11月、第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025 トータルサポートメンバーの協賛契約を締結しました。当社は、1948年に国内初の量産型補聴器を発売して以来、難聴を発見する聴覚検査機器から、聞こえを提供する補聴器まで、ユーザーに寄り添った製品やサービスを通じて、人々の聞こえをサポートしています。また、デフアスリートへの支援活動として、3歳からリオネット補聴器を愛用し、現在はリオネット補聴器アンバサダーとしても活躍されているプロボディーボーダー YUMIEさんの活動を応援してまいりました。

このデフリンピックへの協賛を通じ、デフアスリートを応援するとともに、スポーツ振興を通じて、誰もが個性を生きし、力を発揮できる共生社会の実現に貢献してまいります。



TOKYO 2025
25TH SUMMER DEAFLYMPICS

東京2025デフリンピック大会情報サイトはこちらです。

→ <https://deaflympics2025-games.jp/>



業績の推移

Financial Data

主な経営成績

(単位：百万円未満切り捨て)

	2021年3月期 (第100期)	2022年3月期 (第101期)	2023年3月期 (第102期)	2024年3月期 (第103期)	2025年3月期 (第104期)
売上高	20,466	22,635	23,868	25,726	27,877
営業利益	2,220	3,104	2,844	3,474	4,033
経常利益	2,297	3,212	3,007	3,562	4,106
親会社株主に帰属する当期純利益	1,636	2,229	1,799	2,652	2,859
純資産	23,726	25,289	26,612	29,211	31,435
総資産	30,683	33,157	34,557	37,140	39,132
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,064	2,841	1,783	2,857	3,437
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,137	△ 951	△ 3,246	△ 2,652	△ 1,685
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 566	△ 541	△ 577	△ 565	△ 748

1株当たりデータ

(単位：円)

純資産	1,931.15	2,057.40	2,163.30	2,372.88	2,551.75
当期純利益	133.27	181.41	146.33	215.51	232.19

主な指標

(単位：%)

自己資本比率	77.3	76.3	77.0	78.7	80.3
ROA(総資産経常利益率)	7.6	10.1	8.9	9.9	10.8
ROE(自己資本当期純利益率)	7.1	9.1	6.9	9.5	9.4
配当性向	32.3	24.8	30.8	25.5	30.1

▶ 詳しい財務情報は当社IRホームページをご覧ください。 <https://www.rion.co.jp/ir/>

会社案内 (2025年3月31日現在)

Corporate Data

会社概要

商号 …… リオン株式会社
 本社 …… 東京都国分寺市東元町三丁目20番41号
 創立 …… 1944年6月21日
 資本金 …… 20億6,489万円
 従業員数 …… 連結1,009名、単体504名
 事業内容 …… ○ 微粒子計測器 ・ 微粒子計測器
 ○ 医療機器 ・ 補聴器
 ・ 医用検査機器
 ○ 環境機器 ・ 音響・振動計測器

株式情報

発行可能株式総数 …… 32,000,000株
 発行済株式総数 …… 12,336,700株
 総株主数 …… 7,096名

大株主

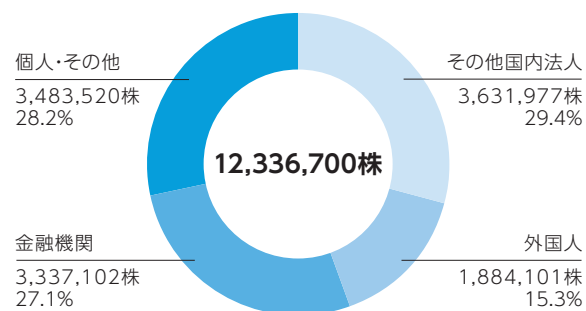
株主名	所有株数(株)	持株比率(%)
一般財団法人小林理学研究所	3,130,700	25.41
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,337,600	10.86
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	940,100	7.63
リオン取引先持株会	482,100	3.91
株式会社みずほ銀行	210,000	1.70
JPモルガン証券株式会社	195,083	1.58
リオン従業員持株会	164,600	1.34
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505103	158,300	1.28
NOMURA PB NOMINEES LIMITED OMNIBUS-MARGIN(CASHPB)	156,000	1.27
日本生命保険相互会社	150,000	1.22

(注) 持株比率は、自己株式17,382株を控除して計算しております。

取締役および監査役 (2025年6月25日現在)

代表取締役社長 …… 加藤 公規
 代表取締役副社長 …… 岩橋 清勝
 取締役会長 …… 清水 健一
 取締役 …… 篠崎 利之
 社外取締役(独立役員) …… 濱田 喜久子
 社外取締役(独立役員) …… 上田 麻理
 社外取締役(独立役員) …… 高橋 和伸
 社外取締役(独立役員) …… 江島 真也
 常勤監査役 …… 中野渡 誠
 社外監査役(独立役員) …… 佐久間 善弘
 社外監査役(独立役員) …… 寺町 東子

所有者別株式分布状況 (持株数)



株主メモ

Stock Information

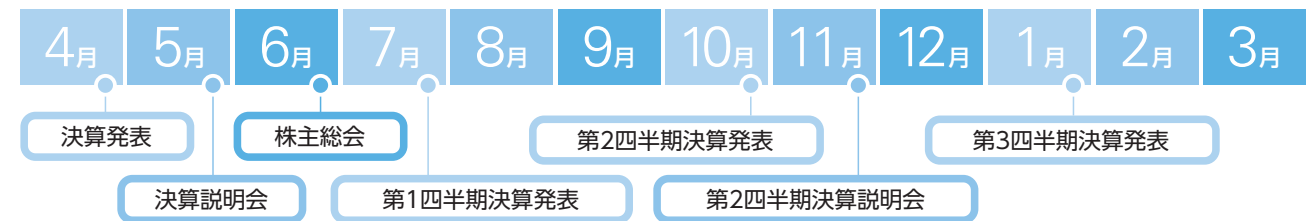
事業年度 …… 毎年4月1日から翌年3月31日まで
 定時株主総会 …… 毎年6月下旬
 基準日 …… 定時株主総会・期末配当 毎年3月31日
 中間配当 毎年9月30日
 株主名簿管理人 …… 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
 三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先 (電話照会先) …… 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 電話 0120-782-031(フリーダイヤル)
 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。

住所変更、单元未満株式の買取等のお申出先について …… 株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。
 なお、株券電子化の際、株券を証券会社の口座に入庫しなかったなどの理由により、特別口座において管理されている株式につきましては、三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

未払配当金の支払について …… 株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

● IRカレンダー



株主優待制度のご案内

期末配当基準日(3月31日)現在の株主様を対象に株主優待を実施しております。

ジェフグルメカード(食事券)

100株以上 ▶	500円分
500株以上 ▶	1,500円分
1,000株以上 ▶	3,000円分
5,000株以上 ▶	5,000円分
10,000株以上 ▶	10,000円分
【追加】100株以上かつ3年以上継続保有※ ▶	1,000円分

※同一の株主番号で、毎年3月末と9月末の株主名簿に7回以上連続で記録された株主様を3年以上継続保有とみなします。

リオンネット補聴器購入割引券

100株以上

※メーカー希望小売価格の10%割引
 (片耳購入の場合は1台分)
 (両耳同時購入の場合は2台分)

有効期間：1年間

表紙の写真

一〇〇選

音風景

残
し
た
い
日
本
の



秋には紅葉が渓流を鮮やかに彩り、落ち葉を踏みしめる音が季節の移ろいを静かに伝えてくれます。

青森県／奥入瀬の溪流

奥入瀬溪流は、約1万5千年前に十和田火山の大噴火によってできたカルデラ湖(十和田湖)から水が流れ出し、その水流が火山灰などの地層を削ったことで誕生しました。全長約14kmにわたる溪流沿いには、大小さまざまな滝が点在し、水が岩を打つ音、せせらぎの音、風に揺れる木々の葉音、鳥のさえずりなど、四季折々の自然の音が訪れる人々を包み込みます。なかでも「阿修羅の流れ」(表紙)は、奥入瀬溪流を代表する景観の一つです。苔むした岩に水が激しくぶつかり、力強く流れる様子は非常にダイナミックで、その迫力から「戦いの神・阿修羅」を思わせるとして、この名が付けられたとされています。地質的にも生態系的にも非常に貴重な場所であり、自然のダイナミズムを感じられるスポットとして、多くの人々を魅了しています。

残したい“日本の音風景100選”

残したい“日本の音風景100選”とは、1996年に環境庁(現・環境省)が選定した「全国各地で人々が地域のシンボルとして大切にし、将来に残したいと願う音の聞こえる環境(音風景)」です。この100選には、小鳥のさえずりや海の波音、祭りの掛け声など、自然や人が作り出す様々な音が含まれ、北海道から沖縄まで、地域ごとの音風景が紹介されています。

リオン株式会社 〒185-8533 東京都国分寺市東元町3-20-41
TEL.042-359-7830(リオン株式会社 企画部 IR広報課)

<https://www.rion.co.jp>

UD FONT

見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

